特集：オペレータの登録

今回は「オペレータの登録と管理」を特集いたします。

オペレータの登録

オペレータに関する管理・設定は、「ユーザーマネージャー」で行います。

（1）認証方法について

ここでの「認証」とは、ユーザーがコンピュータやアプリケーションを使用する権限がある事を確認することです。内部統制で特に重要なのは、適切な職務分掌のもと、「誰に」どのような権限が与えられており、「誰が」何をしたのかが分かるというコントロールの基本が成立していることですが、そのためにはオペレータの認証機能（ID とパスワードなどによる認証）が大前提です。SunSystems では、「Windows 認証」と「標準認証」が選択することができます。

■Windows 認証

「Windows 認証」とは、Windows のログオンアカウントと、「SunSystems」のユーザー（オペレータ）を関連付ける認証方法です。この関連付けを行うと、Windows にログオンすれば、「SunSystems」の起動時に、ID やパスワードを入力することなくログイン出来るようになるので便利です。
また、「Windows 認証」を選択すると、Windows のログオンアカウントと「SunSystems」のオペレータをひもづけて一括管理することができるようになるため、Windows のユーザー管理機能が、そのまま「SunSystems」のユーザー管理に生かせるようになります。このため、IT 部門の負担軽減と同時に、より高度で強力なアクセス管理や、セキュリティ対策を実現することが可能となります。

■標準認証

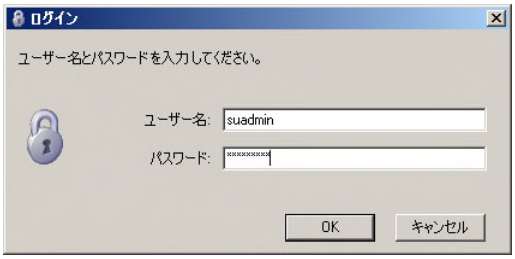
これまで通り、オペレータ ID とパスワードを使用した認証方法（標準認証）を選択することも可能です。この場合、「SunSystems」を起動してログインする際、ユーザーID とパスワードを入力します。

（2）ユーザーの登録

次に、ユーザー（オペレータ）を登録する手順をご説明します。

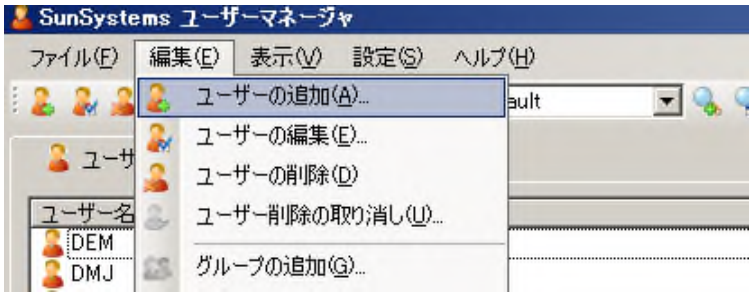
①ユーザーマネージャーの起動

ユーザーマネージャーを起動し、管理者（suadmin）でログインします。



②「編集」から「ユーザーの追加」を選択

メニューの「編集」から「ユーザーの追加」を選択します。



③ユーザー名などを設定

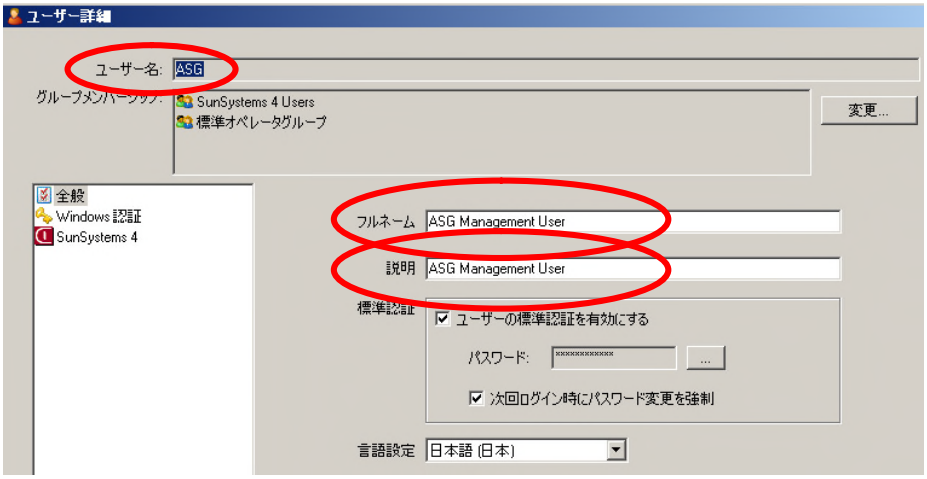
下記の画面が開きますので、「ユーザー名」、「フルネーム」、「説明」の３箇所を入力します。
「ユーザー名」「フルネーム」「説明」はそれぞれ 256 文字入力できます。ただし SunSystems のオペレータ ID は、英数 3 文字以内なので、ここでは、「ユーザー名」を SunSystems の ID と同じものに統一します。

◆ユーザー名

SunSystems にログインする際の ID（英数 3 文字以内で設定してください）。

◆「フルネーム」＆「説明」

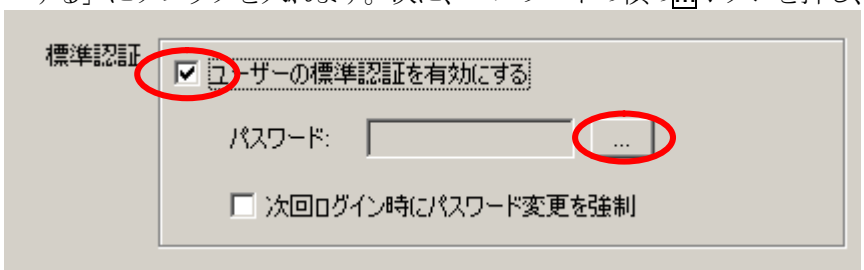
登録ユーザーの名前や所属情報などを入力します。漢字の入力も可能です。



（３）認証方法の設定

①標準認証の設定

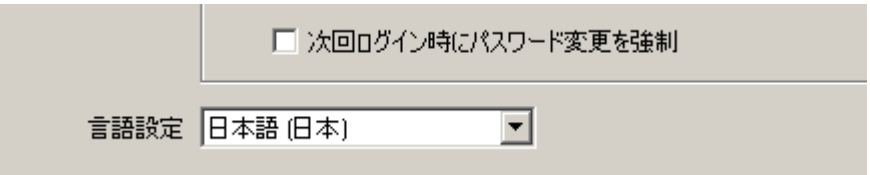
SunSystems にオペレータ ID とパスワードを入力してログインする場合は、「ユーザーの標準認証を有効にする」にチェックを入れます。次に、パスワードの横の…ボタンを押し、パスワードを設定します。



「新しいパスワード」と「パスワードの確認」を入力する画面が表示されますので、それぞれ同じパスワードを入力し、「OK」ボタンを押します。「パスワードが変更されました」のメッセージが表示されたら、設定完了です。「OK」ボタンを押して画面を閉じます。

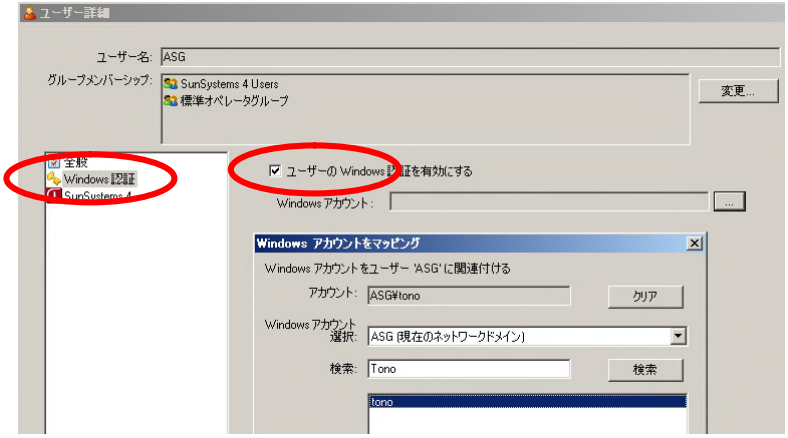
※「次回ログイン時にパスワード変更を強制」の欄にチェックを入れておくと、登録したオペレータ ID で，初めて SunSystems にログインする際に、パスワードの変更を求められます。

※「標準認証」下の「言語設定」の欄は、登録したユーザーで「ユーザーマネージャー」へログオンした際の、メニュー表示言語を選択する欄です。SunSystems のご契約がバイリンガル版でない場合でも、「ユーザーマネージャー」については、ここで、ご希望の言語を設定することが可能です。



②Windows 認証の設定

Windows 認証を有効にする場合は、「ユーザー詳細」の画面の左枠内の「Windows 認証」を選択し、「ユーザーの Windows 認証を有効にする」にチェックを入れ、「Windows アカウント」の横の[...] ボタンを押します。次に、表示される画面で、Windows ログオンアカウントの一覧を「検索」して表示することができますので、ユーザー名と関連付けたい Windows ログオンアカウントを選択します。
選択したら「OK」ボタンを押して、設定した内容を確定します。



ここまでで、「ユーザーマネージャー」のユーザー名（ID）と認証方法の設定が完了しました。

（4）SunSystems のオペレータ登録

ここからは、SunSystems のオペレータの設定を行います。
「ユーザーマネージャー」は、Infor 社の複数の製品のユーザーを、１つの画面で統合管理するという目的で作られているため、はじめに「ユーザーマネージャー」のユーザーと認証方法を設定し、次に、SunSystems のオペレータを追加設定していくという手順になります。

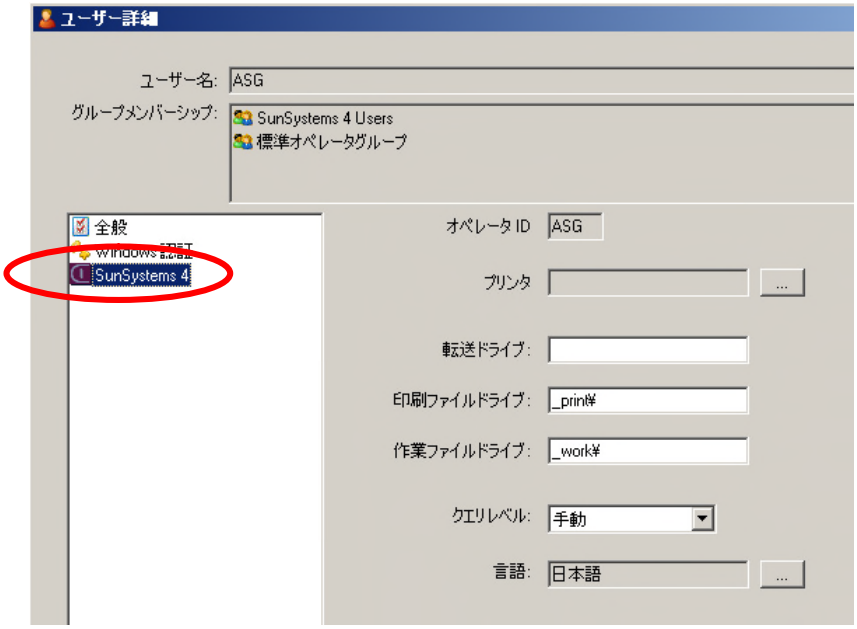
①グループメンバーシップへの登録

先ず、登録したユーザーを SunSystems のオペレータグループに追加します。
「ユーザー詳細」の画面の「グループメンバーシップ」の右端（画面右上）にある「変更」ボタンを押すと、

「グループメンバーシップ」の画面が表示されるので、オペレータグループを選択します。
オペレータグループは、標準では「AATOP」、「ABMED」、「BBLOW」、「標準オペレータグループ」が準備されています。登録したユーザーに権限の制限をかけない場合は「標準オペレータグループ」にチェックを入れます。登録したユーザーに権限の制限をかける場合は、あらかじめ権限の内容を設定したオペレータグループを作成しておき、ここでそのグループを選択します。オペレータグループの設定など、オペレータ許可管理に関する詳しいご説明は、次号以降で特集いたします。
オペレータグループにチェックを入れると、同時に「SunSystems 4 Users」にもチェックが付き、登録したユーザーが SunSystems のユーザーとして追加されますので、「OK」ボタンを押して「グループメンバーシップ」の画面を閉じます。

②SunSystems 4 の設定

次に SunSystems のオペレータの設定を行います。
「ユーザー詳細」の画面の左側の枠内で、「SunSystems 4」をクリックすると、次の画面が表示されます。



ここで、「SunSystems」のオペレータの設定を行います。
各設定項目の内容は次のとおりです。

(1)オペレータ ID (Operator ID)
先に登録したユーザ名（5 ページ）を ID として登録します。この ID は転記した仕訳に記録され、誰が転記した仕訳かを、後から追跡・調査することができます。

(2)プリンタ (Printer)
特定のプリンタコードを設定したい場合に設定します。この設定は、既に登録されている他のオペレータ ID の設定をご確認下さい。

(3)転送ドライブ (Transfer Drive)
オペレータ単位で、転送ファイルの置き場所を特定の場所に制限する場合に設定します。転送ファイルとは、勘定科目一覧などのマスターデータを CSV ファイルなどの形式で SunSystems の外部に吐き出したり、逆に読み込んだりする際のファイルのことです。この設定は「オペレータ許可管理」の雑制約機能と組み合わせて設定します。「オペレータ許可管理」については、次号以降で特集いたします。

(4)印刷ファイルドライブ (Print File Drive)
SunSystems から出力する帳票やレポートなどの印刷ファイルをどこに保存するか、保存場所を設定します。通常は、「_print¥」を設定しますが、オペレータ ID 毎にフォルダを分けて設定することもあるので、既に登録されている他のオペレータ ID の設定をご確認下さい。また、末尾に「¥」マークを付けるのを忘れないように注意してください。

(5)作業ファイルドライブ (Work File Drive)
SunSystems にログインして作業中に作成される一時ファイルをどこに保存するか、保存場所を設定します。通常は「_work¥」を設定します。

(6)クエリレベル (Query Level)
検索機能がある入力欄にカーソルがある時に、検索を手動で行う時は「手動」、システム的な項目を選択するような入力欄の時には自動で検索画面を表示させるには「選択」を、「選択」に加えて科目コードなどの入力を間違えた時に自動で検索画面を表示させるには「自動」を設定します。

(7)言語 (Language)
オペレータが SunSystems へログインした時の画面表示の言語を設定します。ご契約いただいた言語の内容により、「81」（日本語）又は「01」（英語）などから選択します。

設定が完了したら、「OK」ボタンを押して、「ユーザー詳細」の画面を閉じ、「ユーザーマネージャー」の画面も「×」ボタンで閉じます。
以上で、設定は完了です。

※ログインモニターについて

「ユーザーマネージャー」や「SunSystems」に、一度ログインすると、ログイン情報（ID とパスワード）が自動的に保持される「ログインモニター」という機能があります。
「標準認証」で、ID とパスワードを入力して「SunSystems」に一度ログインすると、これらのアプリケーションを終了しても、次回以降の起動時に「ログインモニター」に保持されたログイン情報が使用されるため、毎回 ID とパスワードを入力しなくともログインできるようになり便利です。

一方で、今回のように管理者である suadmin で「ユーザーマネージャー」にログインしてユーザーの登録を行った後で、そのまま「SunSystems」を起動すると、suadmin のログイン情報を使用して「SunSystems」

へログインが行われるため、suadmin は「SunSystems」オペレータではないという意味の、次のようなエラーメッセージが表示されます。

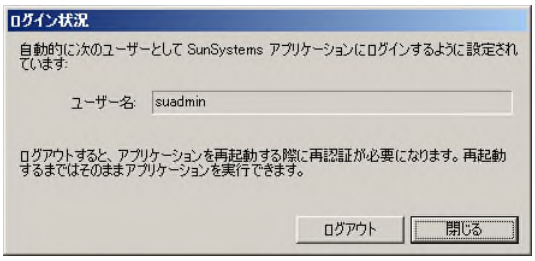
SunSystems では内部統制機能の強化に伴い、「オペレータを管理する方」と「SunSystems を実際に使用する方」を別に分けて、職務分掌をシステム的にフォローすることが基本となっているため、このようなことが起こります。そのため、オペレータを登録した方と、「SunSystems」を使用する方が同一の場合、「SunSystems」にログインするためには、「ログインモニター」が保持している suadmin のログイン情報を一旦クリアする必要があります。手動でログイン情報クリアする方法は次のとおりです。

「ログインモニター」は、SunSystems をインストールすると、バックグラウンドで実行され、デスクトップ右下のシステムトレイ（タスクトレイ）にアイコンが表示されます。

■「ログインモニター」のアイコン

このアイコンをダブルクリックすると、「ログイン状況」の画面が表示されるので、「ログアウト」ボタンを押してログイン情報をクリアします。※アイコンを右クリックして「ログアウト」を実行することも可能です。

■「ログイン状況」の画面



これは、SunSystems を強制終了した場合などで、オペレータ ID がロックしてしまった際に、スーパーユーザー「SUN」でログインして、ログイン情報をクリアする時も同様です。
なお、「Windows 認証」を採用している場合は、ログインモニターでログイン情報をクリアすることができないので、オペレータ ID がロックしてしまった際は、システム管理者の方にお問い合わせください。

※SunSystems について、より詳しいご説明が必要な際は、お気軽にサポートデスクへご連絡ください。
（サポートデスク電話番号：03-5770-8833）

以上